

# 千葉県版遠隔地退院支援事業 (案)version6 H260207作成



## 今までの遠隔地退院支援の課題

入院前の居住地と異なる圏域の医療機関に入院していると・・・

- ①退院を希望(予定)する地域の社会資源等の情報が得にくい
- ②退院後の生活を想定した支援体制が作りにくい
- ③病院と地域の連携が進みにくく、結果として入院がより長期化する一因となってしまう

協議会を活用し、病院の協力を得て  
圏域をまたぐ支援システムを作りたい！

そのためには、支援対象者を受け入れてくれる病院の開拓と、  
圏域を支援者が行き来する旅費が必要！

## 資料の見かた

- 赤字・・・重要！
- 緑字・・・注意事項。補足説明等。
- 青字・・・加算について
- 紫字・・・修正箇所

## 千葉県版遠隔地退院支援を作ろう！

精神障害のある人で、さまざまな事情により

- ①生活していた場所から遠く離れた場所(遠隔地※<sup>1</sup>)で
- ②長期入院(1年以上)※<sup>2</sup>を余儀なくされた人のうち、
- ③以前生活していた地域へ退院を希望する人を  
以前住んでいた地域にある病院に転院させ、退院後の生活を想定した「退院支援」を行う。

※<sup>1</sup> 障害保健福祉圏域外をさす。

※<sup>2</sup> 地域移行支援サービスを活用する為1年以上の入院者を対象

①～③の全てを満たす人が対象

※並行して、病院からの協力を得るためのインセンティブについても検討している。



## この場合は対象になる？①

- ・他県への退院を希望
- ・入院前の居住地ではない圏域への退院を希望（親族宅の近く 等）



- ・本事業の対象にはなりません。
- ・入院医療機関のある圏域内で個別給付として、支援を行うことは可能です（通常の地域移行支援サービスの中で対応）

## この場合は対象になる？②

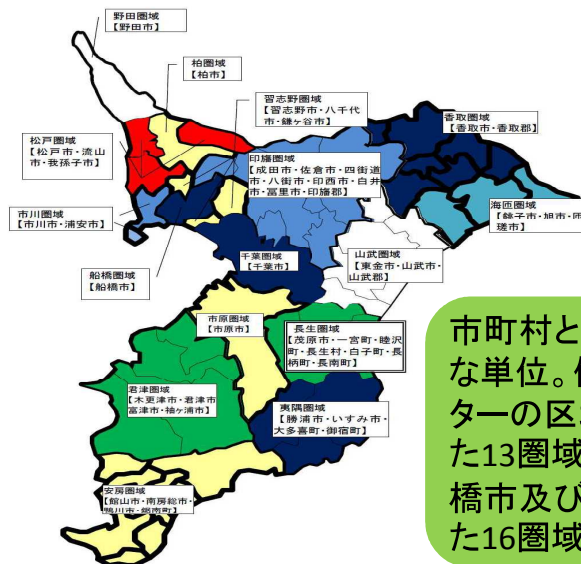
- ・千葉市への退院希望
- ・非常に近い圏域（例：船橋圏域から市川圏域）での支援



- ・上記2例とも、本事業の対象にはなる可能性があります。
- ・千葉市は、地域移行支援事業は実施しておりませんが、自立支援協議会の中で精神障害者地域移行支援協議会の機能も持っているため、対応可能とのことです。
- ・遠隔地退院支援のルールは「他圏域」となっているため、この事業を適応するのは可能です。しかし、非常に近い圏域であれば、通常の地域移行支援サービスで支援を実施するのが望ましいと思われます。

ちなみに・・・

### 障害保健福祉圏域とは



市町村と県の間  
の中間的な単位。  
健康福祉セン  
ターの区域を基  
本とした13圏  
域と千葉市、船  
橋市及び柏市  
を加えた16圏  
域

具体的な事例を見ながら  
流れを紹介します。



## 登場人物 紹介

### 《主人公》

私は、市場花子と言います。58歳の女性です。

①市川市の自宅から、親戚が住んでいた南総市にある安房精神科病院に入院して

②16年になります。

初めはすぐに退院するつもりでしたが、入院中に両親が亡くなり、親戚とも疎遠となり、支援してくれる家族がいなくなりました。

③住み慣れた市川市に帰りたい  
と思っています。



## 登場人物 紹介

### 《安房圏域にいる支援者のみなさん①》



鈴木PSW  
市場花子さん  
の担当PSW



佐藤院長  
市場花子さん  
の主治医

安房精神科病院の支援者  
入院医療機関

## 登場人物 紹介

### 《安房圏域にいる支援者のみなさん②》



高橋PSW  
市場花子さんの安房  
圏域での地域移行  
支援の担当

安房相談支援事業所の支援者  
退院支援事業所

## 登場人物 紹介

### 《安房圏域にいる支援者のみなさん③》



田中PSW  
安房圏域連携コー  
ディネーター

安房圏域地域移行支援協議会事務局  
入院医療機関のある圏域の協議会事務局

登場人物 紹介  
《市川圏域にいる支援者のみなさん①》



登場人物 紹介  
《市川圏域にいる支援者のみなさん②》



登場人物 紹介  
《市川圏域にいる支援者のみなさん③》



市川圏域地域移行支援協議会事務局  
受入医療機関のある圏域の協議会の事務局

登場人物 紹介  
《市川圏域にいる支援者のみなさん④》



市川市役所 障害者支援課

※居住地特例のため、以前住んでいた市川市が支給決定の主体となる

## 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)

### 1. 対象者

#### (地域移行支援)

- 障害者支援施設、のぞみの園、児童福祉施設又は療養介護を行う病院に入院している障害者  
※ 児童福祉施設に入院する18歳以上の者、障害者支援施設に入院する15歳以上の障害者みなしの者も対象。
- 精神科病院(精神科病院以外で精神科病室が設けられている病院を含む)に入院している精神障害者。  
→ 長期に入院していることから支援の必要性が相対的に高いと見込まれる1年以上の入院者を中心に対象。  
1年未満の入院者は、特に支援が必要な者(措置入院や医療保護入院から退院する者で住居の確保などの支援を必要とするものや地域移行支援を行わなければ入院の長期化が見込まれる者など)を対象。  
※ 地域移行支援の支給決定主体は、現行の障害者支援施設等に入院する者と同様に、精神科病院を含め居住地特例を適用。  
(入院・入所前の居住地の市町村が支給決定)

#### (地域定着支援)

- 以下の者のうち、地域生活を継続していくための常時の連絡体制の確保による緊急時等の支援体制が必要と見込まれる者。
  - ・ 居宅において単身で生活する障害者
  - ・ 居宅において同居している家族等が障害、疾病等のため、緊急時等の支援が見込まれない状況にある障害者
- 具体的な対象者のイメージは、施設・病院からの退所・退院、家族との同居から一人暮らしに移行した者、地域生活が不安定な者等
- グループホーム・ケアホーム、宿泊型自立訓練の入居者については、対象外。

※ 地域相談支援の給付決定に当たっては、障害程度区分認定調査に係る項目を調査(障害程度区分の認定は不要)ただし、現行の国庫補助事業支援対象者については調査を実施しないことも可。(更新時は調査が必須)

### 2. サービス内容

#### (地域移行支援)

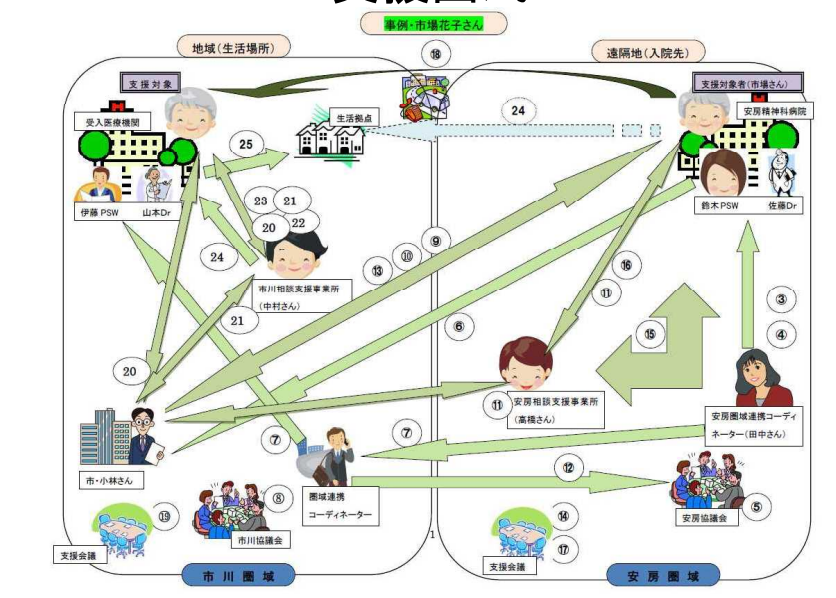
- 住居の確保その他の地域における生活に移行するための活動に関する相談その他の厚生労働省令で定める便宜を供与。  
→ 「その他厚生労働省令で定める便宜」は、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援等。

#### (地域定着支援)

- 常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に相談その他の便宜を供与。  
→ 「常時の連絡体制」については、携帯電話による体制によることも可。また、緊急の事態に対して速やかに駆けつけられる体制を確保することが前提。  
→ 「その他の便宜」については、障害福祉サービス事業所等との連絡調整等の緊急時の各種支援を想定。

16

## 支援図式



市場花子さんが退院するまで



### ①支援対象者の把握(4月)

南房総市にある安房精神科病院長の佐藤です。

千葉県障害福祉課からアンケートが送られてきました。

遠方から長期に入院している方の支援を千葉県として取り組むようです。うちの病院では、市川市から入院している千葉太郎さんや、市場花子さんが対象になりそうですね。

この事業にぜひ協力することにしましょう。





## アンケート(案)抜粋

1-1 障害保健福祉圏域ごとに、どのような方が入院されているのか、その方々をどのように地域で支援していくのか等検討するため、千葉県障害福祉課で取りまとめを行っている630調※1 個票12「在院期間・年齢別の在院患者数」(別添3参照)を地域移行支援協議会で公表することに同意いただけますか。

①同意できる ②同意できない

1-2 同意できないとした場合、差し支えなければその理由をご記載下さい。

※1 630調査 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が毎年6月30日時点の都道府県・指定都市内の病院等に資料提供を求めている。正式名称は「精神保健福祉資料」という。個票12については、別添3参照。

このアンケートでこの事業への協力の有無が分かる。

2-1 千葉県の取り組みの重点事項となっている「遠隔地入院患者の退院支援」についてご協力いただけますか。具体的には、  
・貴院入院中の方で、障害福祉圏域を超えて入院されている方を、地域移行支援協議会へ推薦  
・他圏域の精神科病院に入院している方で、貴院の所在する障害福祉圏域に退院予定の方を、地域移行の準備のために転院を受け入れる。  
ということをお願いしたいと思っております。

①協力できる ②協力できない

## ③入院医療機関(安房精神科病院)と圏域連携コーディネーター(田中さん)との打ち合わせ(7月上旬)

圏域連携コーディネーターの田中です。

先日、県・障害福祉課から遠隔地退院支援事業対象病院について話がありました。安房圏域だと安房精神科病院に対象者がいるようです。

次回の協議会から具体的に話をすすめるために、事前の打ち合わせを実施しましょう。

打ち合わせの参加者は、安房精神科病院の医師やPSW等(その他県障害福祉課・保健所・精神保健福祉センター)としましょう。

※ここで、具体的な対象者の名前等を把握することになる。



## ②県・障害福祉課で対象者の把握(5月～6月)

県・障害福祉課です。アンケートの回収が終了しました。早速、圏域連携コーディネーター※1のみなさんに資料の提供と、地域移行支援協議会での取扱について相談しないと!

そうそう、圏域連携コーディネーター会議※2も開いて、情報共有しないと。各協議会で委員のみなさんへの周知も必要ね。



※1 障害保健福祉圏域ごとに1名配置

※2 圏域連携コーディネーターの相互連携や情報提供、質の向上を目的とし年3～4回ほど実施。

## ④入院医療機関にて、病院のPSW(鈴木さん)と圏域連携コーディネーター(田中さん)が事業対象候補者(市場さん)と面接(7月上旬)

鈴木です。先日の打ち合わせで名前の出た市場さんに退院についての気持ちを聞いてみたところ、以前住んでいた市川市に帰りたいたいと話がありました。前から退院を勧めていた主治医にも再度確認をして、退院の話を進める了解を市場さんと一緒にもらいました。



その後、圏域連携コーディネーターと一緒に市場さんに遠隔地の事業について説明して、地元の病院に転院してから退院する可能性があること、「計画相談支援」と「地域移行支援」についても説明しました。

## 鈴木さん・田中さんと面接後の市場さん



鈴木さんや田中さんによると、遠隔地の事業とは、退院準備のために一回転院するみたい。転院先は見つかるかしら。

「地域移行支援」では、退院後の住むところや、どんな生活を送るといいのかということの相談にのってくれたり、一緒に外出してくれるよう。

「計画相談支援」では、その「地域移行支援」というサービスを使うためのおおまかな計画というのを作成してくれるってことかしら。

とても難しそうだけれども、退院して、そのあと元気に暮らしていくために、色々とお手伝いしてくれるということがわかりました。

## ⑥入院医療機関(安房精神科病院)より、市川市役所に地域移行支援サービス利用について連絡(7月中旬)

「安房精神科病院の鈴木です。市川市から長く当院に入院されていた市場さんが退院するために、地域移行支援を利用したいと思っています。相談支援事業所は安房相談支援事業所と考えています。」



「市川市の小林です。お話を伺ったところ地域移行支援に該当しそうですね。申請をお願いします。」

※鈴木さん(安房精神科病院PSW)は、支援が動き出したことを田中さん(安房圏域連携コーディネーター)に連絡をする。

## ⑤入院医療機関のある圏域(安房圏域)の地域移行支援協議会にて、入院医療機関(安房精神科病院)の意向確認・退院支援事業所の選定 (7月中旬)



参加者は 病院(入院医療機関を含む)、行政(市町村・保健所・MHC・県障害福祉課)、地域の施設・事業所等

安房精神科病院PSWの鈴木です。安房圏域の地域移行支援協議会に出席しています。先日、事前打ち合わせをしたことを報告し、委員のみなさんから意見をいただき、市場花子さんを事業の対象とすることになりました。また、安房相談支援事業所が計画相談支援と地域移行支援をしてくれることになりました。

※計画相談支援と地域移行支援については、別の事業所になる可能性有  
※協議会では、今後、毎回進捗状況を報告(スライドNo⑫)



## ⑦田中さん(安房圏域の圏域連携コーディネーター)から連絡を受けた渡邊さん(市川圏域の圏域連携コーディネーター)の動き(7月中旬)

渡邊です。市場花子さんが事業の対象となったと連絡が入りました。市川での転院先のあたりをつけないといけないですね。障害福祉課からのアンケート結果だと、市川圏域は、市川精神科病院が協力してくれそうです。次の協議会で議論できるように事前に市川精神科病院に話をしてみましょう。



伊藤です。安房圏域から市川に退院された方がいるのですね。院長に話をし、受入について検討してみましょう。状況については、次の協議会までに報告ができればと思います。

※アンケートで事業の受入可となっても、ベット状況等で断られる可能性もある。また、アンケートでは不可だが、個別の事案では受入が可能の場合もあると考えられる。アンケートは目安として活用。  
※病院の意向によりその後の動きが変わる。例えば、もっと詳細の情報が欲しいので、安房精神科病院から直接連絡が欲しいとか、本人の様子や本人が気に入るかどうかが確認するためにも一度見学にきてほしいなど。他にも考えられるが、要望には、その都度、適宜対応とする。この市場花子さんの事例としては、このまま受入の方針で話を進める。

## ⑧受入医療機関のある圏域(市川)の地域移行支援協議会にて、病院の意向確認・退院支援事業所選定(7月中旬)



参加者は 病院(入院医療機関を含む)、行政(市町村・保健所・MHC・県障害福祉課)、地域の施設・事業所、等

渡邊です。今日は、先日安房圏域から話のあった市川圏域に退院を希望している市場さんの話をするために、安房圏域連携コーディネーターの田中さんに来てもらってます。  
安房からは、事前に連絡を頂いていたので、市川精神科病院と打ち合わせをしておいたことも委員のみなさんに報告し、意見をいただきました。  
こちらに転院してきた場合は、市川相談支援事業所が地域移行サービスを実施してくれそうです。

※計画相談支援と地域移行支援については、別の事業所になる可能性有

※協議会では、今後、毎回進捗状況を報告

※協議会は2カ月に1回実施の圏域もあるため、1カ月開催がずれる可能性有



## ⑩認定調査(8月上旬)



市川市役所の小林さんが認定調査をしに、病院にきてくれました。

ずいぶん、沢山質問されたなあ。



※民間の相談支援事業所に委託し実施している市町村もある。

一方、市場さんは...

## ⑨地域移行支援(個別給付)の申請(7月下旬)



地域移行支援申請先の市川市役所にきました。

(一人では遠いし、不安なので鈴木PSWさんに同席をお願いしました。)

市役所で、申請書を提出しました。

市役所の小林さんには、「認定調査をしますね」と言われました。サービスを使うのは大変だと思いました。

※申請が郵送でも可能な市町村あり

※⑤～⑨は同時進行となる。



## ⑪サービス等利用計画(案)の作成(8月上旬～中旬)

認定調査を受けた後、サービス等利用計画の作成をしてくれる相談支援事業所を選びました。

鈴木PSWさんとも相談して、支援してくれると言ってくれた「安房相談支援事業所」にお願いすることにしました。



安房相談支援事業所の高橋PSWさん私の話を親身になって聞いてくれて、サービス等利用計画(案)を作成して市に提出してくれました。

※安房相談支援事業所にサービス等利用計画費1,600単位/月

※サービス等利用計画を作成するのに概ね1週間程度かかる





## 私の暮らしサービス利用計画表(案)

利用者氏名: 市場花子さん

記入年月日

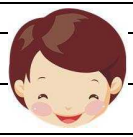
達成目標

- (1)長期目標(内容及び期間等)  
精神科病院を退院して、元気に1人暮らしをする。
- (2)短期目標(内容及び期間等)  
どんなところに住んで、どんな暮らしをしていくかを決める。

ご本人の希望(ニーズ)及び支援計画等

| ニーズ                 | 支援内容<br>(内容・留意点等)                            | 支援期間<br>(頻度・時間・期間等) | 担当者              | 優先<br>順位 |
|---------------------|--|---------------------|------------------|----------|
| 住むところを決めたい          | グループホームやアパートの見学をします。                         | 1回/2週               | 高橋<br>相談支援専門員    | 3        |
| 働く準備をしたい            | 日中活動や就労準備の施設を見学します。                          | 1回/2週               | 高橋<br>相談支援専門員    | 4        |
| 退院後に備えて、日常生活の準備をしたい | 生活のスタイルを話し合いながら、日常生活の準備をします。服薬・食事・お金の準備をします。 | 週3日                 | 医療機関<br>鈴木PSW・OT | 1        |
| 友達の話を聞きたい           | 退院した人たちに生活の様子を教えてください。                       | 1回/2週               | 医療機関<br>鈴木PSW    | 1        |
| 利用体験や外泊体験をしたい       | 住むところや、通うところを利用前体験をします。                      | 随時                  | 高橋<br>相談支援専門員    | 5        |

|       |             |                           |
|-------|-------------|---------------------------|
| 年 月 日 | 利用者名 市場花子 印 | 安房相談支援事業所<br>相談支援専門員 高橋 印 |
|-------|-------------|---------------------------|



## ⑫入院医療機関のある圏域(安房圏域)の地域移行支援協議会に、受入医療機関のある圏域(市川圏域)の圏域連携コーディネーターが出席(8月中旬)



参加者は 病院(入院医療機関を含む)、行政(市町村・保健所・MHC・県障害福祉課)、地域の施設・事業所、受入医療機関のある圏域連携コーディネーター等

安房精神科病院PSWの鈴木です。  
安房圏域の地域移行支援協議会に出席しています。前回からの進捗状況を報告し、委員のみなさんから意見をいただきました。  
この結果は、市川圏域からきてくれた市川圏域連携コーディネーター(渡邊さん)より市川圏域の協議会で報告してくれるようです。



※計画相談支援と地域移行支援については、別の事業所になる可能性有

※協議会では、今後、毎回進捗状況を報告

※受入医療機関のある圏域(市川)連携コーディネーターを呼ぶのではなく、入院医療機関のある圏域(安房)連携コーディネーターが、市川の協議会に行く場合もある。  
協議会の開催状況に応じて実施。

## ⑬支給の決定(8月下旬~9月)



市川市役所の小林さんから連絡がありました。  
地域移行支援の利用ができるようになりました。

これから、安房精神科病院にいる間は、鈴木PSWと安房相談支援事業所の高橋さんや皆さんが、退院に向けて手伝ってくれるんですね。

※市町村にもよるが、概ね2週間から1カ月くらいで支給決定となる



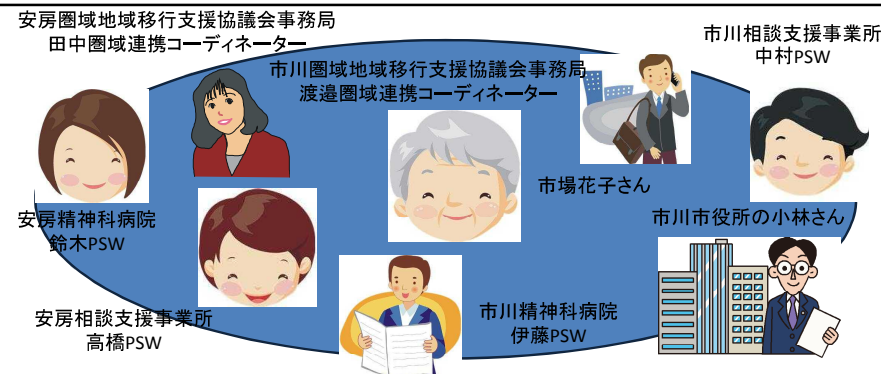
## ⑭第1回支援会議の開催(9月上旬)

両協議会の事務局、退院支援事業所と受入支援事業所、入院医療機関、受入医療機関と本人等で具体的な退院に向けての話し合い。

※旅費は地域移行支援事業の一環として、安房圏域地域移行支援協議会事務局(事業として、旅費の補助を予定)

※地域移行支援の支給決定前に会議を開催することもあり得る。

※事前に関係者が会い、本人と知り合うことで本人の転院の負担の軽減を図り、かつ情報の共有を図る。

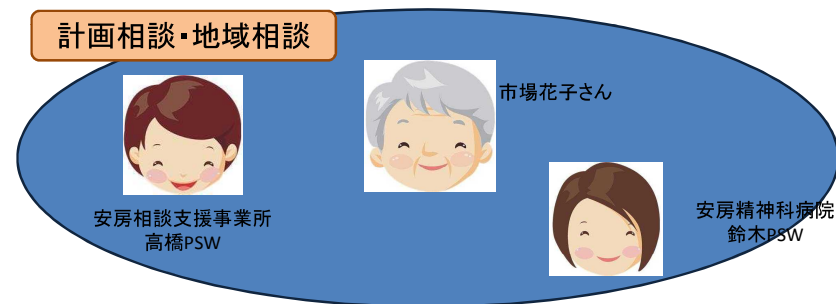


## ⑮ サービス担当者会議(9月中旬)

市役所から退院に向けた地域移行支援が使えると連絡があり、支援方法を具体的に考えるため、関係する人たちを集めて会議を行いました。

※通常の地域移行支援サービスを利用時に必要な会議

※転院しないで、市川圏域に退院することもある。



## ⑯ 支援開始(9月中旬) (入院元にて※安房精神科病院)

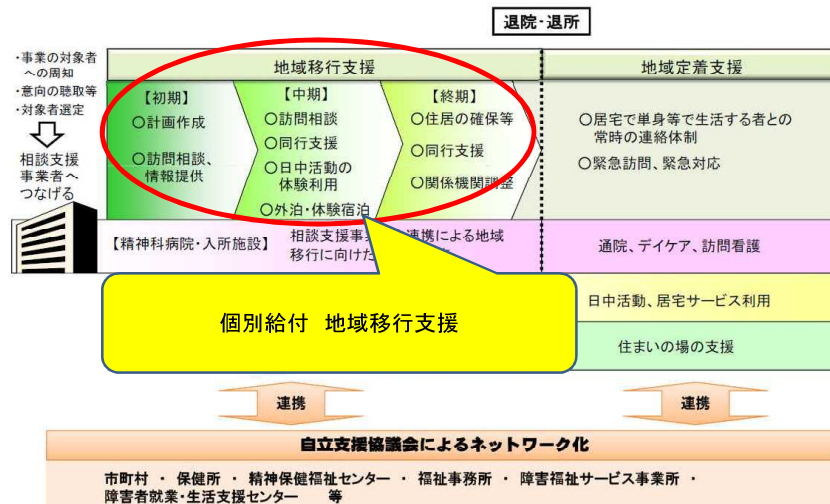
安房精神科病院にいる間にできることとして、服薬管理や、調理のプログラムなどの作業療法が始まりました。

高橋PSWが、外出支援や制度の説明などに病棟に来てくれます。計画に沿って一つ一つ頑張れば、退院が近付くんですね！

※地域移行支援サービス費 2300単位/月  
(毎月算定。少なくとも月2回以上面接・同行支援)



## 新 地域生活への移行に向けた支援の流れ(イメージ)



※ 精神障害者の退院促進支援事業の手引き(平成19年3月日本精神保健福祉士協会)を参考に作成

## ⑰ 第2回支援会議の開催(11月上旬)

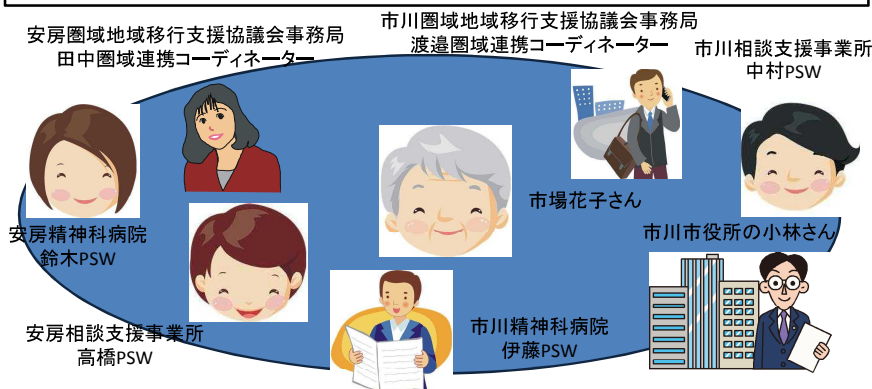
転院の段取りが整ってきました。市場さんの人柄やどのような地域での生活を目指しているのかきちんと伝えるよう支援会議を開催しました。

※旅費は地域移行支援事業の一環として、安房圏域地域移行支援協議会事務局(本人がいる圏域の事業所が旅費を持つ)

※場合によって、転院をしないで、市川圏域に退院することもある。

※⑯と⑰はどちらか1回でもよい。どちらでやった方が効果的か検討し開催。

※転院する際の受入病院の見学を実施するかなど、具体的な調整を実施



## ⑱転院(11月中旬)安房精神科病院から市川精神科病院へ



いよいよ、安房精神科病院から、以前住んでいた場所の近くにある市川精神科病院に転院することになりました。市川精神科病院の人たちとは以前会っている(見学している場合もある)から、緊張はするけど安心です。



## ㉑受入医療機関(市川精神科病院)にて受入支援事業所と本人が面接(11月中旬)



市場です。  
転院して、少しすると、市川相談支援事業所の人会いに来てくれました。  
安房相談支援事業所の人たちは、とても遠いので、これからは、市川相談支援事業所の人たちが支援してくれるとのことでした。  
まだ、手続きが済んでいないので、これから市役所にいかないとはいけません。  
市役所も近くなったし、動きやすいな。

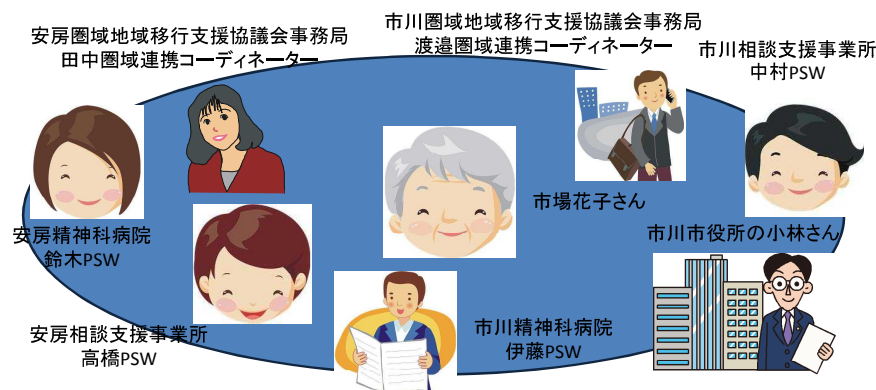


## ⑲第3回支援会議の開催(11月上旬)

無事、市場さんが転院しました。これから先、しっかり支援を受けられるように転院先にて支援会議を開催しました。

※旅費は地域移行支援事業の一環として、市川圏域地域移行支援協議会事務局(本人がいる圏域の事業所が旅費を持つ)

※⑬と⑱はどちらか1回でもよい。どちらでやった方が効果的か検討し開催。



## ㉒地域移行支援(個別給付)の事業所の変更手続き(11月中旬)



中村PSWさんに手伝ってもらい、地域移行支援の事業所の変更申請を市役所にしました。  
市川相談支援事業所の地域移行支援の利用ができるようになりました。  
これから、市川精神科病院の伊藤PSWや市川相談支援事業所の中村さんが、退院に向けて手伝ってくれるんですね。



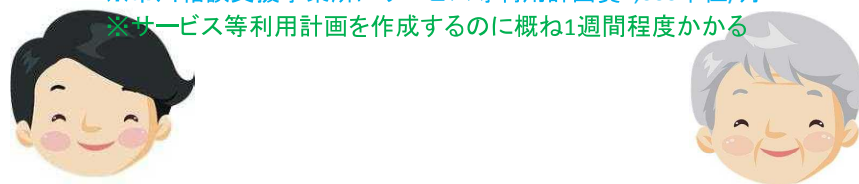


## ②2市川圏域でのサービス等利用計画 (案)の作成(11月中旬)

市場です。

市川圏域でのサービス等利用計画の作成をしてくれる市川相談支援事業所の中村さんとお話をしました。安房圏域とは少し違うサービスも利用できるようです。地域によって使えるサービスが違うんですね。ますます退院に近づいた気がします。

※市川相談支援事業所にサービス等利用計画費1,600単位/月  
※サービス等利用計画を作成するのに概ね1週間程度かかる



## ②4 支援開始(体験) (11月～2月)



昔住んでいた近くの、グループホームに宿泊体験してきました。

※市川相談事業所に体験宿泊加算(1)300単位/日  
やっぱり、一人暮らしをしたい! と思って、中村PSWさんと、不動産屋にこれから行く予定です。その他、生活訓練や、就労移行支援の体験や見学もしています。

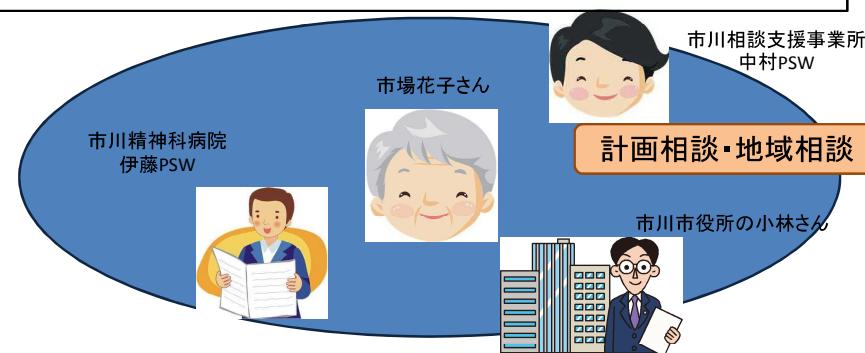
※障害福祉サービス事業の体験利用加算300単位/日  
※退院月で月6日以上面接・同行による支援を行った場合に加算で集中支援加算500単位/月



## ②3サービス担当者会議(11月中旬)

市場さんの退院に向けた支援方法を具体的に考えるため、関係する人たちを集めて会議を行いました。

※通常の地域移行支援サービスを利用時に必要な会議



## ②5退院(3月)

鈴木さんに声をかけてもらって約半年後、皆さんの協力を得て、市川市に退院※退院・退所月加算2,700単位/月することができました。家は、昔家族で住んでいた地域にあるアパートです。市川精神科病院に通院しながら、生活訓練を利用して、少しずつやりたい

ことを増やせていけたらいいと思います。





## 退院後も支援してもらっています。



退院し、一人暮らしが始まりました。  
地域定着支援の契約をしていたので、

困ったことがあった際には中村PSWさんにいつでも電話ができます。※地域定着支援サービス【体制確保】300単位/月  
夜間どうしても不安なときも対応※【緊急時支援】700単位/日してくれるから、とても安心です。入院生活が長く、色々わからないことが多いので、もう少し※1年以内。更新も可能このサービスを利用したいと、次のモニタリング※継続サービス利用支援1,300単位の際にお話ししようと思っています。



## 備考

- この事例はあくまでも流れの確認のため、全ての工程を実施しなければならないというものではない。また、工程が前後する場合も考えられる。
- 協議会は2月に一回以上実施されていることから、そのタイミングで進捗について確認する。
- 圏域連携コーディネーター会議についても、随時調整とする。
- 病院・市町村の協力は不可欠。周知が必要。



新

## 地域生活への移行に向けた支援の流れ(イメージ)

